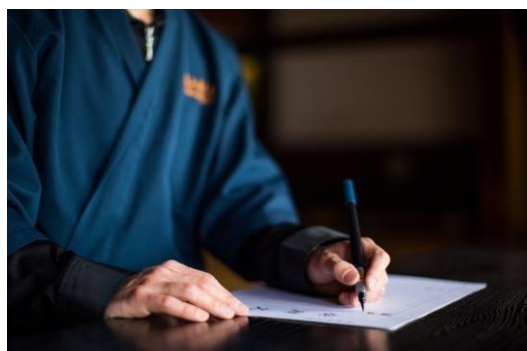
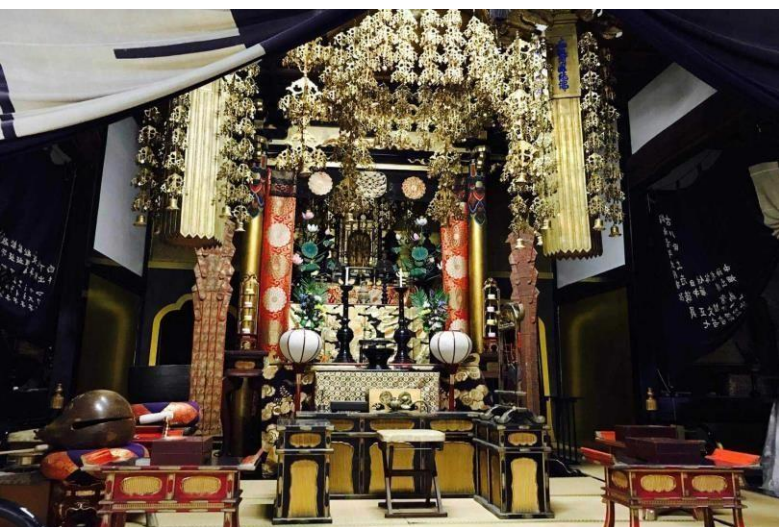


高山善光寺

TEMPLE HOTEL ZENKO-JI



学びのしおり

— 事前学習資料 —

善光寺ってどんなお寺？ ①



高山善光寺は浄土宗のお寺です。
今から約120年前に信州善光寺大本願の別院として建立されました。

信州善光寺は宗派を問わない寺院であり、国籍、宗派、性別問わずご参拝頂けることが特徴です。

高山善光寺の歴史

起源

1658年（江戸時代前期）

高山市の東山にある大雄寺（浄土宗）の弟子の一人が山内に創建した寺を林香院と呼んでいたが焼失してしまいます。

1880年（明治13年）

大雄寺は焼失してしまった寺の再建を浄土宗総本山の知恩院に願ったところ、再建が許可され、善光寺如来を授与されました。

（善光寺如来＝信州善光寺の本尊である一光三尊阿弥陀如来と同じ特徴を備えた如来像を通称、善光寺如来と呼ぶ。）

しかし、寺はすぐにはできず、城山に城山新善光寺として寺院に似つかわしくない小さな庫裏（住職やその家族の居間）程度のもので造られただけでした。

1884年(明治17年)

大雄寺の弟子である大雲上人の実家からの土地の寄進が行われ、また募金により建築資金も集まったことで善光寺建立の気運が高まります。

1896年（明治29年）

ついに再建、お寺の名前も善光寺と改称をし、初代住職は大雲上人がつけました。

第一世大雲上人から善光寺は大切に受け継がれ、第二世泉信堂上人が現在の寺院を再建、正式に宿坊を開き、「善光寺信仰」をもつ遠方からの参拝者をお寺にお泊めしていました。

特に、戦争の時代を生き抜いた第3世泉信潤上人の平和活動は地域の方に支持されました。

しかし、時代とともに少しずつ地域とのつながりも途絶え、約20年前から常駐者不在となったところで、宿坊として続けていくのは厳しいという結論に至りかけました。

しかし、その危機を乗り越え、現在は(株)シェアウィングに運営を委託し、宿坊の運営を続けています。

東山にある大雄寺



復興

再建

発展

現在

善光寺ってどんなお寺？ ②

信州善光寺とは？

高山善光寺は信州善光寺にゆかりがあります。なぜなら、高山善光寺は信州善光寺と同じ仏様を祀っているからです。信州善光寺は日本に初めてもたらされたと言われる仏像（一光三尊阿弥陀如来、通称「善光寺如来」）を安置する歴史のあるお寺です。日本で仏教が宗派に分かれる前から存在するため、宗派を問いません。

また、善光寺如来様は身分も性別も問わず、すべての人を救ってれるため、昔は日本中から今は世界中から参拝者が集います。

そして、そんな善光寺如来様にはこんな物語があります。



信州善光寺 本堂 © 信州善光寺

善光寺始まりの物語



昔々、インドに月蓋長者（がっさいちょうじゃ）という金持ちがいて、如是姫（によぜひめ）という娘を溺愛していました。

ある時、その如是姫が病に倒れます。信仰心の薄い月蓋長者でしたが、藁にもすがる思いで、仏さまに助けを求めました。その時に助けてくださったのが阿弥陀如来（あみだによらい）様だったのです。

月蓋長者は阿弥陀如来（あみだによらい）様にとっても感謝し、阿弥陀如来様の像を金で作りました。

時は流れ、その仏像は朝鮮半島の百済へ。月蓋の生まれ変わりである当時の百済の支配者、聖名天皇は仏教と共にその仏像を日本へもたらしました。

当時、百済から様々な学問や技術を取り入れていた日本。天皇とその重臣たちはその仏像を拝むべきか話し合いましたが意見が分かれます。

いったん、その仏像は祀られますが、日本に病が流行りだすと、それを阿弥陀如来様のせいにして、一部の重臣が仏像をお堀に放り投げてしまいました。

数年の後、本田善光（ほんだ よしみつ）という人が、都から故郷の信濃国（今の長野県）へ帰る 途中に「よしみつ、よしみつ・・・」と呼ぶ声を聞きます。すると、お堀の水のなかから仏像が 飛び出てきたのです。それは、あの阿弥陀如来さまの仏像でした。

そして、阿弥陀如来様は、善光が月蓋長者・聖明王の生まれ変わりで、ずっと自分に仕えてきたことを告げたのです。それを聞いた本田善光さんは故郷の信濃国へ帰り、阿弥陀如来さまの 仏像を祀りました。これが信州善光寺の始まりです

高山善光寺にもこの絵があります。探してみてください！



高山善光寺の平和活動

泉信潤ご住職の平和活動についてのドキュメンタリー動画



<https://youtu.be/UoT-2loDfSU>

約120年前に建てられた高山善光寺。明治・大正・昭和と時代を超えて、代々のご住職さんが大切にこのお寺を守ってきました。その中でも、第二次世界大戦を生き延び、亡くした戦友の遺骨を集めに生涯を捧げた、**第三世のご住職、泉信潤さん**の一生について紹介していこうと思います。

泉信潤ご住職の生涯

- 1928年 泉信潤ご住職は高山善光寺の長男として生まれる。
- 1939年 11歳の時に第二次世界大戦が始まる。
- 1942年 14歳で海軍航空隊に志願して合格。
- 1945年 17歳の時、戦争の劣勢を挽回すべく敵に爆装して突入する「特攻隊」に志願する。



境内の前にある 戦没者慰霊碑

“国のために自ら命を捧げたのです。私も志願したときは震えましたよ。「(特攻隊を志願する者は)一步前へ出ろ」と言われて一步前に出ましたが、すぐには出られなかった。ぐう！とこらえて一步でました。皆そうです。約120名、予科練(海軍下士官飛行訓練学校)を卒業した日です。皆一緒でした。全員(一步前に)出ました。…自分の親、兄弟、日本のために自分は命を捨てると。”

—泉信潤上人著「予科練特攻から遺骨収集へ」より

しかし、年若く、お寺の後継者であることを理由に出撃が後回しにされ、結果多くの同僚を亡くします。

戦後 終戦後、仏教の大学に入り「僧侶の資格」と「教員の資格」をとり、岐阜県高山市にて公立高校教師として、国語・古典文学を教えながら、自らの戦争体験を通して平和を守っていくことの大切さを説き続けました。

1988年 59歳で教師を退職、念願であった戦没兵士・軍属、の慰霊活動を始めます。

“「最初にサイパンへの慰霊旅行で偶然遺骨を発見した時、その遺骨がもう一人の自分の姿でもあると思え、強い衝撃を受けた」
「困難な時代に自分だけが生き残ってしまった、だから若い人たちに平和の大切さを伝えて、生きているちはなんとしても、一片でも多くの遺骨を探し出し慰霊して魂を日本の家族の元へ連れ帰ることこそが生き残った私の務めだ」”

信潤さんの言葉。後の家族談より。

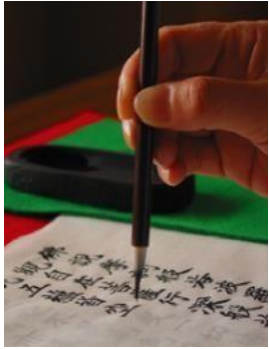
1999年 70歳、遺骨探索中、テニアン島の洞窟より戦友のもとに 逝かれました。

泉信潤上人
(右から2番目)



写経について ①

写経って何？



写経とは、仏教の経典(仏典)を書き写すことです。

印刷技術がなかった時代に僧侶達が、「布教」のために経典を書き写したのが写経の始まりです。後に、「個人の修行」や「祈願や供養」という性格を帯び始めました。現代では「心の平穏やリラックス」を求めて、写経を行う人も増えています。

写経のトリビア！

仏教の経典には何が書かれているの？誰が書いたの？



仏教の経典には、今から約2500年前にインドの地で悟りを得た(世の中の真理を理解した)お釈迦様の教えが記録されています。しかし、実際に経典を書いたのはお釈迦様ではありません。口頭でしか教えを説かなかったお釈迦様に代わって、その死後、弟子たちがお釈迦様の教えを後世に残すべく経典の制作を始めたのです。

日本での写経の歴史

飛鳥～奈良時代

6世紀、日本に仏教が伝わり同時に仏教の経典や仏像ももたらされました。その後、天災や飢饉により社会不安が増大する中、仏教で国を守ろうという動きが活発になります。その一環として仏教経典を大量に複写する必要がありました。



しかし、当時に印刷技術はありません。そこで、国立の写経所が作られ、厳しい試験に合格した写経生(経典を複写する役人)が雇われました。このように飛鳥～奈良時代、写経は鎮護国家のための経典複写を目的に国家事業として行われていました。

写経のトリビア！

写経生の暮らしは？



写経生は一日、平均7枚程度のお経を書写したそうです。生活は安定しており、給料も当時の下級役人にしてはよかったです。複写物にはかなりの正確さを求められ、誤字・脱字には罰金が科せられました。



写経について ②

平安時代

奈良時代の写経は専門の写経生によって、国家事業として行われましたが、平安時代になると写経は僧侶や貴族の手に移ります。

また、写経の目的も単に「經典の数を増やす」というより「祈願や供養」が主体となり、装飾経（挿絵や金箔など、

美しい装飾を施した經典）が盛んになりました。上の写真2枚は、どちらも装飾経として有名なものです。

一字蓮華法華經



平家納経



写経のトリビア！

平家義経について



上の写真の平家納経は、平清盛をはじめ、息子の重盛、経盛など平家一門の人々が一巻ずつ書写して厳島神社に奉納した經典です。各巻に金や銀で飾られた表紙と、経の大まかな意味を描いた美しい絵が挿入されています。平家の繁栄を支えた日宋貿易における海上の安全を祈願して奉納されたと言われてい



鎌倉時代

鎌倉時代に入ってもしばらくは平安時代と同じ傾向が続きます。しかし、禅宗が不立文字（悟りの道は、文字・言語によっては伝えられるものではないということ）を唱え、他の宗派も經典の書写には重きを置きませんでした。また、鎌倉・室町期になると木版印刷の技術が進み、木版經典が普及し始めたため、經典複写という写経の本来の目的は薄れ、写経は下火になっていきました。

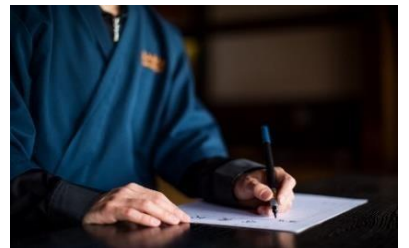


現代

ストレスの多い、この現代社会。

「心の平穏やリラクゼーション」を求めて写経をする人が増えています。

また、最近では「脳の活性化」にも効果があると科学的に証明され、一層の注目が集まっています。ただ無心に筆を動かしてお経を写す時間は穏やかに自分と向き合う機会をプレゼントしてくれるかもしれません。



写経のトリビア！

写経で脳の活性化！？



仙台市内の高齢者を対象にオセロゲームやくるみにぎりなど、これまでも高齢者の脳活性化に役立つとされてきた160種類の作業で効果を測定した結果、その中で写経が最も「脳の活性化」に役立つことがわかりました。（平成18年1月4日 産経新聞）普段は使いなれない筆で一文字、一文字、意識を指先に集中させながら書くことで脳に刺激を送ることができるのだそうです。

写経について ③

高山善光寺で写すお経

【修行体験コース】の方へ

衆生無辺誓願度

法門無量誓願学

煩惱無尽誓願断

仏道無上誓願成

「四弘誓願文」



意味、所感

自分で
どういう意味かを調べて、
上の枠線内に書き写して
みましょう。



写経について ④

高山善光寺で写すお経

【お坊さんと触れ合って
仏様の教えを知ろう！コース】の方へ

意味、所感

舍利弗 赤色赤光 青色青光 池中蓮華

極楽国土 白色白光 黄色黄光 大如車輪

成就如是 微妙香潔

功德莊嚴



「仏説阿弥陀経」の一部を抜粋

お経を写した後、
それについての法話を聞きます。
自分でも、漢字から意味を
想像したり、実際に調べたり
してみましょう。



法話について ①

法話とは？

お釈迦様や高僧の方々が説かれた仏さまの教えを、
現代の言葉でわかりやすくお話することです。

法話をして下さるご住職



名前 朝戸臣統（あさど たかつな）ご住職

経歴 高山市でお寺の長男として、生まれ育つ。
龍谷大学（浄土真宗の宗門校）に入り、
仏道の道へ。
浄土真宗本願寺派 神通寺16世住職として、
精力的に諸活動に取り組む。

趣味 スキーと自転車

座右の銘 好きこそものの上手なれ



ひとこと

今の生き方に、息苦しさを感じることはないですか？？

頑張っているのに、報われない、つらいと感じることはないですか？？

一生懸命頑張rinaさい、努力しなさい、というプレッシャーに耐えられないことはない
ですか？

仏さまの願いは、私たちの「あたりまえ」では計り知れない願いなのです。

「あなたの居場所はここにありますよ。あなたのありのままを認めますよ。」

そんな仏さまのお心を、共に聞いてみませんか。

ご法話を聞く、というのは、自分のモノサシを超えた、仏さまのモノサシを聞かせてい
ただくことです。

ちょっとだけ、強く握りしめた自分のモノサシを離れ、仏さまのモノサシをお聞かせい
ただきましょう。

法話について ②

ご住職の歩んできた道のり

お寺に 生まれて

朝戸さんは岐阜県高山市にある神通寺の長男として生まれ、小さい頃からお坊さんになることを期待されて育ってきました。野球に打ち込んだ中学時代、山岳部で北アルプスを巡った高校時代は「お坊さんになること」が「親にひかれたレールを歩むこと」のようで、嫌だと思っていました。

恩師に 出会って

そんな朝戸さんに変化が訪れたのは大学生の頃。高校卒業後に仏教系の大学に進学していました。

“私が大学で仏教を学ぼうと決めたのは、お寺へ帰ってから『経済的に自立するため』だった。おつとめ・作法・教義などを習得し、一僧侶として『生きる糧』となる仏教を身に着けたいと思っていましたね。”

しかし、大学での二人の恩師との出会いを通して朝戸さんは仏教の本質に気づきます。

“大学で二人の恩師に出会ってね。彼らは自分の『モノサシ』を超えた仏さまの『モノサシ』で世界をみていた。そして、私はそんな彼らの生き方から『仏さまのお慈悲を心から喜び、苦悩の人生を乗り越えながら歩いていくため』に仏教を学ぶのだと気づくことができましたね。それからです、『生きるよりどころ』としての仏教に向き合えたのは。”

そうして、朝戸さんは『生きるよりどころとしての仏教』に向き合うことができた喜びを伝えたいという思いを胸に得度（修行を積んで、正式に僧侶になること）をします。

僧侶 として 生きること

僧侶になって約35年。朝戸さんは「生きるよりどころとして一緒に仏の教えを味わえる人を増やしていきたい」という思いを胸に日々の活動（ご住職としてのお参り、毎月の定例法座の開催、ご門徒さんの研修のお手伝い、法話の勉強をしている若者たちの指導など）を続けています。

僧侶として生きてきたこの35年を振り返り、朝戸さんは、僧侶になってよかったと思うことの一つとして仏さまの『モノサシ』を知れたことを挙げたいとおっしゃいます。

「大学時代の恩師たち。彼らが身をもって示してくださった仏様の『モノサシ』を頂く人生に出会えた喜びは今もこの胸にずっとあるなあと感じるよ。」

朝戸さんを僧侶の道に導いた仏さまの『モノサシ』っていったい何でしょう。とても気になりますが、ここからは実際のご法話でお話をして下さるそうです。みなさん、楽しみにしててください。

法話について ③

朝戸さんにとって法話とは

朝戸さんにとってのご法話とは、ロコミ！

その心は...

どちらも『喜び』を伝えることでしょう。

“例えば、レストランのロコミは実際に食べてみたお客さんの「ああ、美味しかった！」という実感が喜びになり、その喜びを周りに伝えたい！という思いから生まれるものです。そして、そのロコミはその店主の「美味しいよ！食べに来て！」という一言よりも広まりやすかったりするのです。
私も仏さまの教えを味わい、人生のよりどころに出会えた喜びを感じました。だから、その喜びを多くの人に伝えたい。
その私の喜びが伝わった誰かが、仏様の教えを味わって、喜びを感じる。そして、その誰かが、またその喜びを伝える。
そんな風に、まるでロコミが広まるみたいに、仏様の教えを味わう喜びが広まっていったら、それが何よりだと思ふのです。”

朝戸さんにとってご法話とは、仏さまの教えをただ分かりやすく伝えるだけのものではない。

そこに、僧侶自身の『喜び』が入ることで、周りの人にもっと伝わるご法話になる。そんな朝戸さんの『喜び』が込められたご法話、ぜひ一緒に聞いてみましょう。

参考文献

本寿院。“写経ってなーに？”。写経.com<http://syakyou.com/syakyoutoha.html>(参照2018-6-30)

大門孝司『写経～その書と心～』（1991年）(株)芸術新聞社

写真の引用元

飛鳥～奈良時代

<http://imgcc.naver.jp/kaze/mission/USER/>

20170619/40/4557270/110/750x407xcbaeeb11ce6b949a5e78399e.jpg

平家納経

<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/bunkazai/bunkazai-data-101020010.html>

一字蓮華法華経

<http://sky.geocities.jp/yugawa117/sld-13/sld-wakuwaku/sld-ryukouji/ryukouji-1.html>

木版経典

<https://www.travel.co.jp/guide/photo/14006/5/>

戒壇巡りについて ①



戒壇巡りとは

戒壇巡りとは、地下回廊に入り、暗闇の中のどこかにある「仏様の分身であるお錠前」を見つけ触れることで、私たちが本来持っている仏縁の種を大切に育ててゆくことを仏様にお誓いする(仏さまと結縁する)修行です。



そもそも戒壇って？

→トリビア1へ！

戒壇巡りの発祥

戒壇巡りの発祥は信州善光寺です。

善光寺伝によると814年に最澄が善光寺を訪れた際に設けた場所であるとされています。それ以後、「戒壇巡り」は善光寺信仰の広まりとともに日本全国に広まりました。

(現在では全国に約50件ある)



なぜ、善光寺信仰が広まったの？

→トリビア2へ！

戒壇巡りの功德

戒壇巡りの功德は、「心にある仏種を育て、仏さまと縁を結ぶこと」です。

私たちの心の中には平等に、仏になる種(仏種もしくは仏性)が植えられています。

しかし、その皆の心に平等にある仏種も磨かなければ光りません。

それはダイヤモンドみたいなもので、原石に磨きをかけることで美しい輝きを放つのです。

そして、ご戒壇巡りの修行は、皆さんの心に平等にある仏種を磨ききっかけになります。

一寸先も見えない暗闇の中で錠前を探しだし、出口に近づいたときに、見える地上からの光の筋。その目の前にそのわずかな光を見る時、ほっと安堵して普段は感じることのない目の見える尊さ、同時に眼の不自由な方の日々の苦しみ、不安が理解できると思います。

そうした方々の思いを知り、手を差し伸べる、そんなわずかな親切が、仏種を育てていくことなのです。

ぜひ、皆様のごころの中にある「仏となる種」を大きく育てているのだ、という気持ちで「戒壇巡り」を行ってみてください。

戒壇巡りについて ②

トリビア1

そもそも戒壇巡りって？

戒壇とは、戒律の授受(見習い僧が正式な僧になるための通過儀礼)を行うために土や石で作られた壇です。

日本では奈良時代にはじめて作られます。当時、僧侶は租税免除や刑罰軽減など様々な特権を持っていたため、独自に僧侶になって修行もせずに墮落する僧が増えたことが国家的な問題になっていました。戒壇の建立は、そのような墮落した僧侶と受戒を受けて仏道を究める僧を明確に区別することに役立ちました。

※「戒壇」と「戒壇巡り」の間に関係性がないとは言いきれませんが、その基本的な性質は大きく異なります。「戒壇」は受戒する場所ですが、「戒壇巡り」で受戒が行われることはなく、過去に行われたという事実もありません。



トリビア2

なぜ善光寺信仰が広まったの？

信州善光寺が本堂を作り直す際の費用を集めるために「本尊を境内から他の場所に移してお披露目すること」(出張開帳)を始めたことが、善光寺信が広まった大きな理由だと言われています。

出張開帳は善光寺参りが困難な日本各地の人々も本尊の姿を拝見することができるということで、全国で歓迎されて各地の民衆の善光寺如来への信仰を高めました。



近くのお寺を知ろう！

みなさん、いきなりですが、お寺とコンビニの数はどちらが多いかご存知でしょうか。

全国に寺院は7万7342カ寺。全国のコンビニ数を5万1476店。(日経ビジネスより)
なんと、今では生活になくてはならない日本中に広がるコンビニエンスストアより
寺院の数の方が多いのです。

それは、昔からお寺が人々にとってなくてはならない存在であった証拠かも知れません。

それぞれの地域の歴史を見守り続けてきたお寺。

それらを知ることはその地域を深く理解することにもつながります。

さあ、自分の周りにあるお寺に目を向けてみましょう！

近くのお寺をピックアップ！

近所のお寺を書き出してみよう！

【 (寺院の名前) の基本情報(上に書き出した中から一寺選ぼう！) 】

宗派:

本尊:

本尊以外の安置する仏像:

建立された年:

その他: